

総合的な被害対策や取組 ～体制整備や合意形成～

兵庫県立大学自然・環境科学研究所
教授 山端 直人

0

自己紹介

農林水産省⇒三重県庁⇒現職

山端 直人 兵庫県大／森動センター

専門:「農村計画」「アクションリサーチ」
「野生動物の被害管理」

～社会調査、集落づくり、被害防除、
捕獲、政策提案まで～

2

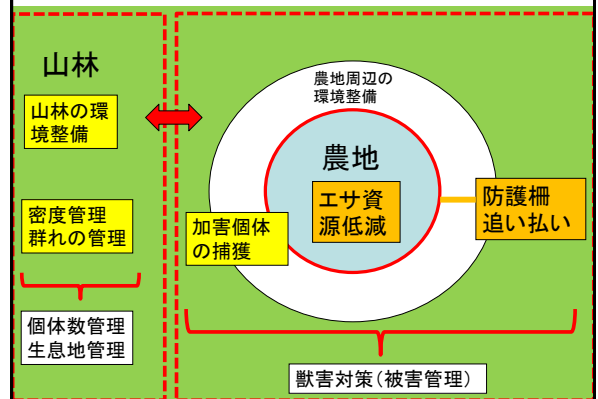
研究活動の目的

■ 獣害を解決できる社会(集落や地域)
とは、どのようなものか

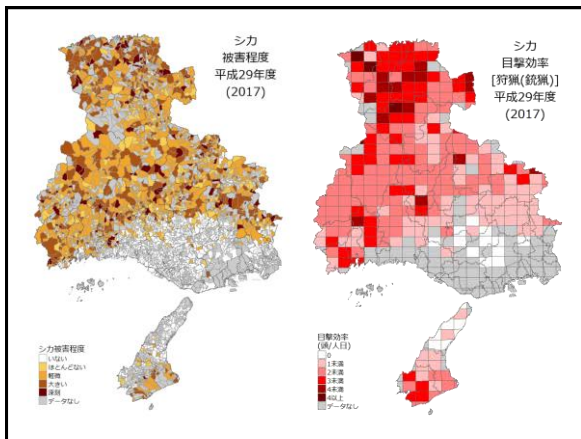
⇒たぶん、これからの縮小社会の農
業農村をはじめとする種々の地域
社会課題解決に役立つ

4

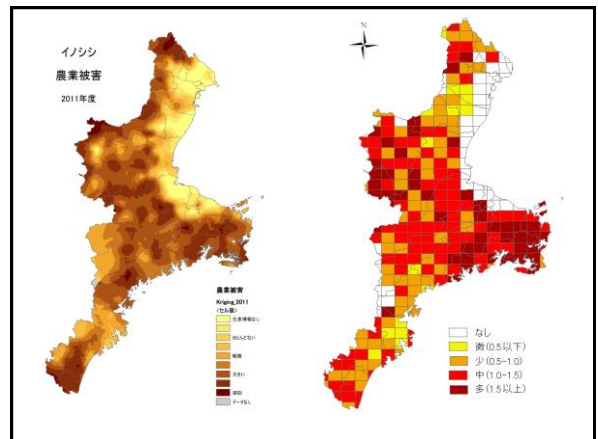
野生動物管理の概念



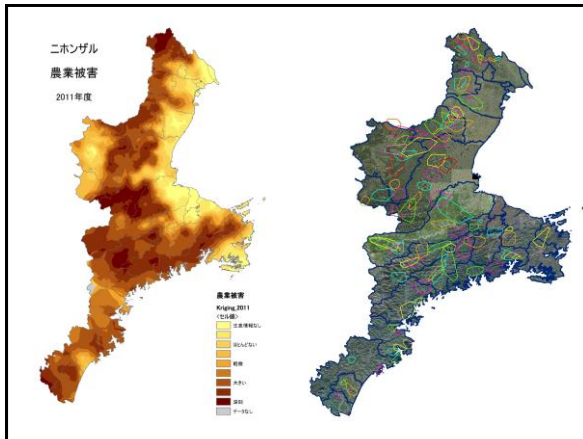
9



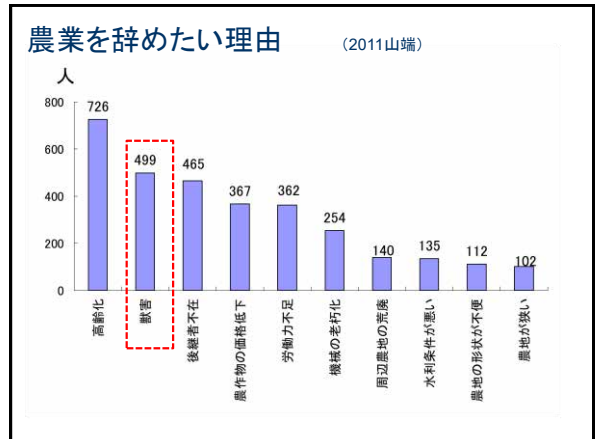
22



27



28



42



48

■だから「役所が」「誰か」なんとかしろ？

■住民の役割は？ 行政の役割は？

■ここには、種々の地域社会の問題に共通する課題が見えます

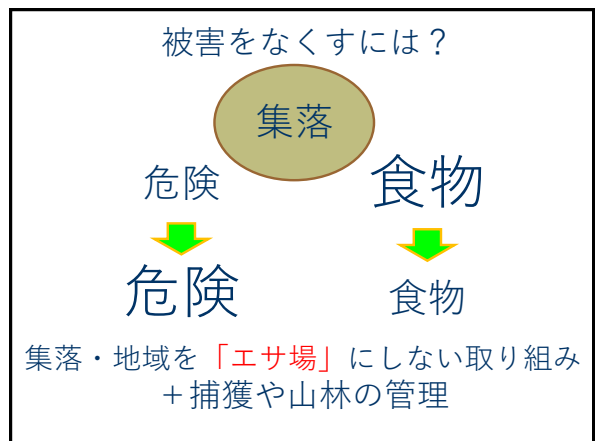
→ 獣害(に限らず)を真剣に考えると、種々の地域社会の問題解決に**つながる**(はず)

49

お話ししたい内容

- 獣害が発生する原因
- 原因を改善することで、獣害を軽減できることは可能
※その実例や手法(柵、追い払い、捕獲)
- 獣害につよい集落・地域をつくる手法
- 地域社会や農業問題としての制度設計
～どうやって、「できる」仕組みを作るか～

52



59

地域でみられる 「獣害」の5つの原因

62

①人が被害と思わない「エサ」がある



63

②「正しく」囲えていない



70

③隠れ場がある



87

④正しく追い払っていない（サル） （効果が少ない追い払い）



91

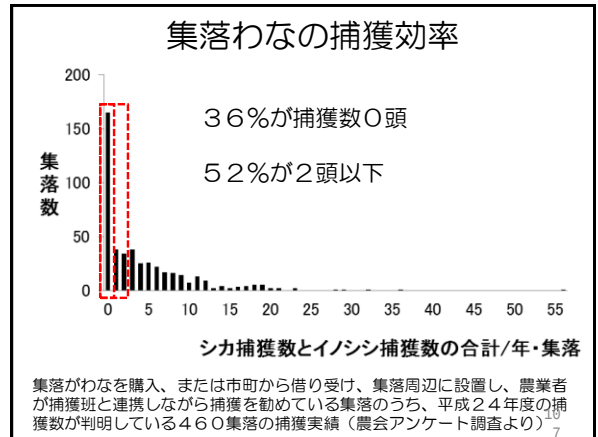
⑤効果的な捕獲ができてない



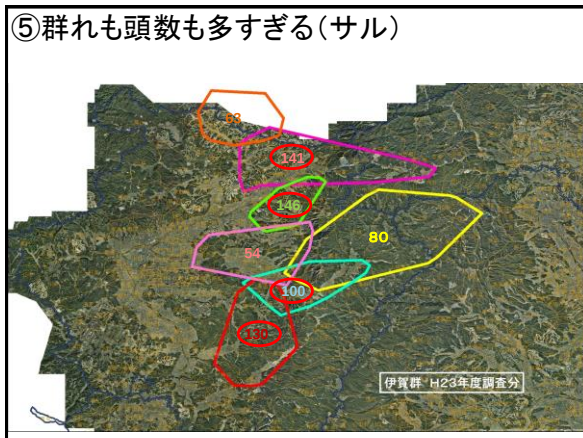
99



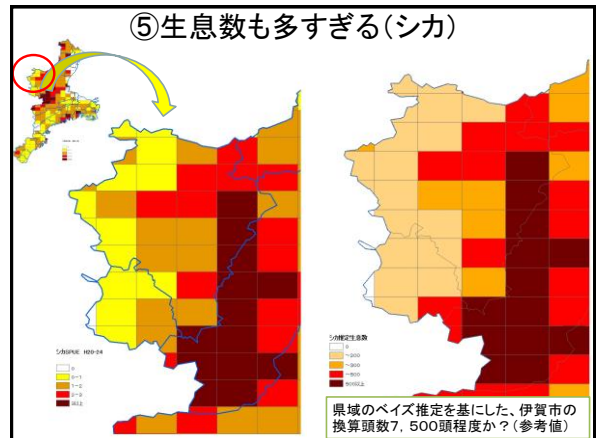
105



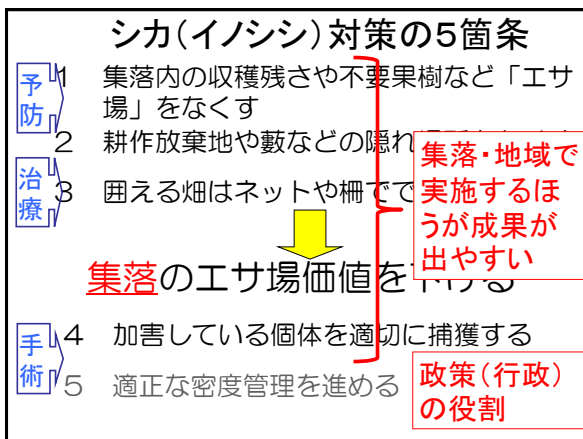
107



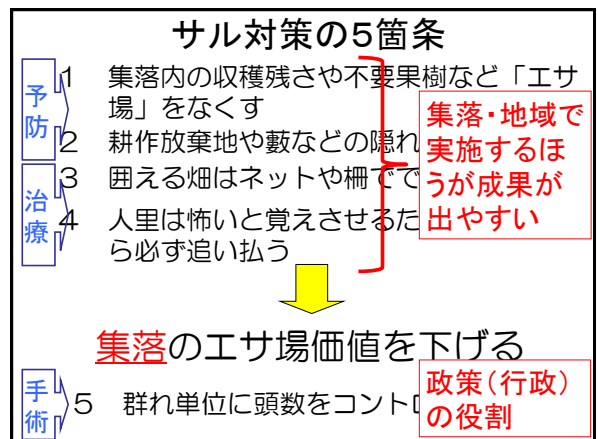
113



114



119



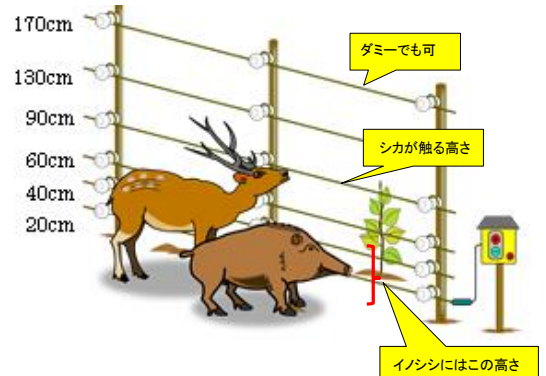
121

ここで紹介するのは

～各地での社会実験～

122

③電気柵で囲う（シカ+イノシシ）



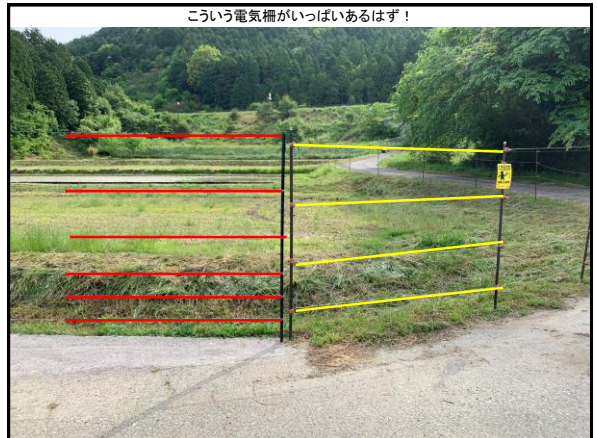
127

だから、こういう簡易な
チェック棒などを使うと
ミスが少なくなります



133

こういう電気柵がいっぱいあるはず！



134

兵庫県 相生市小河集落

中程度密度？地域での
集落主体防護+捕獲モデル

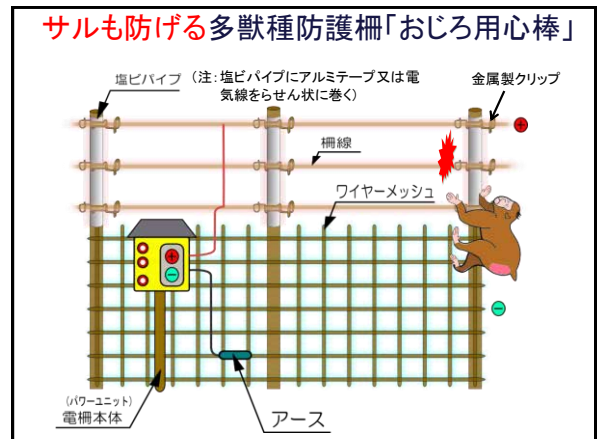
150



155



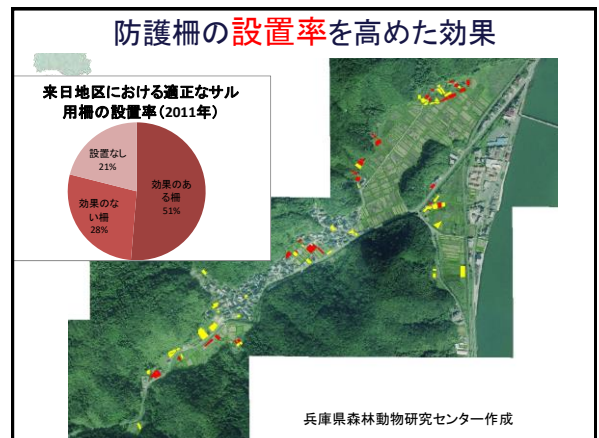
157



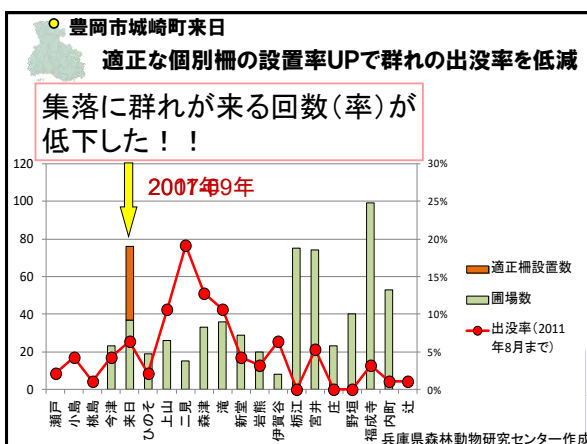
161



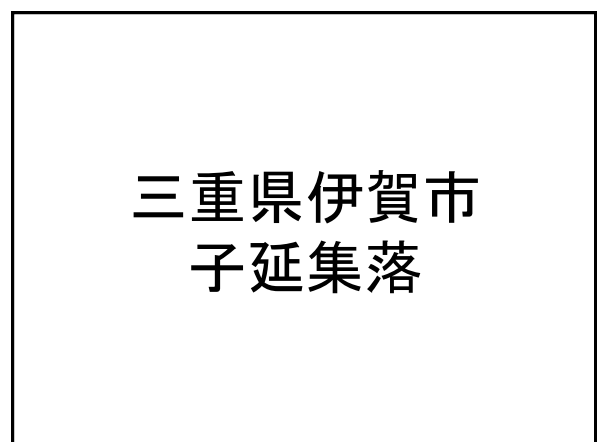
165



167



168



178